

絵本で子育てを楽しく

子どもは、お父さんやお母さんや家族の声が大好きです。
絵本を読んでもらったり、おはなしやうたを聞いたりすることは、
ことばを覚えたり興味・関心を広げたりする大切な機会です。



子どもと
絵本の出会い
2ページ



親子で
いっしょに
読み聞かせ
4ページ



0歳～2歳
頃の
読み聞かせ
6ページ



2歳～6歳
頃の
読み聞かせ
8ページ



読み
聞かせの
大切さ
10ページ



絵本にふれる
機会を
増やそう
12ページ

こんなとき、
どうする・どうしたQ&A
14ページ



文部科学省

子どもと絵本の出会い

子どもは、お父さんやお母さんや家族のここちよいことばのひびきを覚えています。



おなかの中でも
聞いています



語りかけられたことを
覚えています



うた声を聞いて
安心します

だんだん五感がめばえてきます。



わくわくドキドキするものと
たくさん出会います。



子どもにとって、
生まれてはじめての絵本は
おもちゃのような存在です。
読んでもらって、はじめて絵本の世界と出会います。



いっしょに
見るのって
楽しい！

さまざまなことやものに興味・関心を持ち、自我がめばえはじめる時期です。
自分で絵本を選んだり、
手にしたりすることも出てきます。



お気に入りの絵本、
何度も読んでもらっても
おもしろい！



お母さん、
これ読んで



いつしょに読むのも
楽しいね

絵本の登場人物になりきって、
想像の世界でさまざまな体験をするようになります。
うれしくなったり、くやしくなったり、
悲しくなったりすることも……。



ハッピーバースデー！
絵本をプレゼント!!

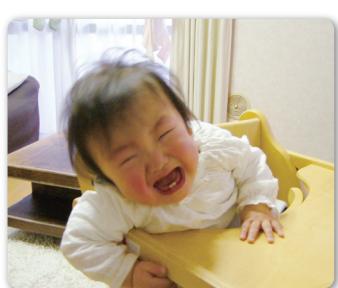


おはなしを聞いているひだり
絵本の中へ



幼稚園・保育園などの施設でも
絵本に出会うことことができます

こんなとき、
どうしたらよいの？
あなたなら、どうしますか。
次からのページに
ヒントがあります。
読んでみてください。



子どもが泣きやまない、
じつじょり…



どんな絵本が
いいのかわからない…

親子でいっしょに読み聞かせ

読み聞かせは、絵本や本を子どもに読んで聞かせ、幼い子どもたちがおはなしの楽しさを感じるひとときです。子どもの情緒や想像力を育て、ことばを覚える機会にもなります。親にとっても子どものすてきな表情を通して子育ての楽しさを感じるひとときです。



なにをして遊ぼうかな～と迷うときでも、絵本があれば会話がはずみます。

親子で楽しい時間を過ごしていますか

テレビ・DVDなどの映像メディアと親の語りかけには違いがあります。テレビなどは子どもの興味・関心に関係なく一方的にうつされますが、読み聞かせはその子のペースで見たり、会話をしたりしながら読み進めることができます。



テレビなどは、できるだけいっしょに見て会話をしましょう。



同じ本をいっしょに見ることを楽しみましょう。

家族のふれあいの時間を持とう

子どもはどんどん成長します。絵本やうたを子どもと楽しめる時間を大切にしましょう。



ふれあいの時間は、子どもの家族への信頼を深めます。



読み聞かせやうたは、子育て中の楽しい時間です。



こころとことばを育てる

ことばを学ぶことで考える力が育ち、人にかかわろうとする気持ちも育ちます。



▲読み聞かせによって大脑の感情をつかさどる部分が活動しています。※

※泰羅雅登、2009 調査

読み聞かせは、ことばだけではなくこころも豊かに育てます。



暮らしの中でことばを楽しむ遊びをとり入れよう

子どものこころとことばの成長には、こころに届く大人からのあたたかな語りかけが必要です。そんなにむずかしいことではありません。暮らしの中で絵本の読み聞かせや、うたを歌うなど、ことばを楽しむ遊びをとり入れてみませんか。



お父さんも子どもとふれあうきっかけにしてみては？

読書の効果 ~小学生時代の体験をふり返って

山形県鶴岡市在住の佐藤響くん(16)は、四人兄弟の長男で現在高校生です。小学校の頃から、単身赴任中のお父さんにかわって絵本の読み聞かせをしていました。

響くんは「小さい頃は、絵本やおはなしから頭の中に浮かんでくる想像の世界がおもしろかったけど、今は本を読むことで、いろいろな見方や考え方があり、自分の思いや意見が出てくることが楽しいです」と話しており、すっかり読書好きです。

今でも響くんが読み聞かせをすると、みんな集まって聞き入っています。



現在高校生の響くん（左から2人目）



当時小学校4年生の響くん（左から2人目）

0歳～2歳頃の読み聞かせ 音やリズムを楽しもう

お父さんやお母さんや家族の声は赤ちゃんや幼い子どもにとって特別です。
子どもに愛情を持って表情豊かにことばをかけましょう。

0歳～2歳の頃



この時期は、話しかけたり、
ふれあったり、抱っこをしたり
することが大切です。

ことばの音やリズム、大人の表情や
雰囲気を感じとっています。



楽しみながら、ことばを吸収して
います。

子どもと楽しくふれあう

子どもがなにをおもしろがるか、
様子を見ながら、親子でふれあう
時間を持ちましょう。

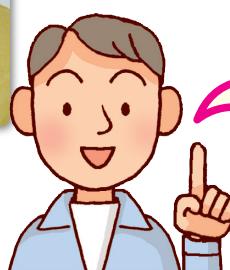
子どものまなざしや
しぐさに関心を示すことが
成長につながるそうよ



語りかけながら子どもの様子を
見守りましょう。



目を見ながら、
からだにふれながら
ゆっくり話しかけましょう。



いっしょに
外遊びをする
ことも大切
だよね



この時期の読み聞かせ

親子遊びのひとつとして、読み聞かせをはじめてみませんか。生まれてから、すぐにでもはじめられます。子どもがすわれるようになったら、ひざに乗せるなど、よりそって読むことが大切です。

途中まででも、好きなページだけでも、楽しめる範囲で読み聞かせを行いましょう。

- おすすめの絵本**
- ✿ 子どもの好きなものがのっている
 - ✿ 身近な動物や植物が登場する
 - ✿ 生活の中のことばにふれている
 - ✿ ことばや音のくり返しがある



子どもにうたを聞かせる

わらべうたや子守りうたなど、うたを歌って聞かせましょう。とくに、わらべうたは音域が狭いため、乳幼児でも聞きやすく、子どもが歌いやすいことが特徴です。

知っているフレーズだけでも、自分流のリズムでもかまいません。ゆっくりと同じテンポでくり返ししましょう。



子どもが絵本と出会う機会を支援する活動（ブックスタートなど）

子どもの健康診査のときなどに、すべての赤ちゃんと保護者に絵本や絵本のブックリストを手渡したり、読み聞かせをしたりするブックスタートなどの支援活動を行う市区町村が増えています。そのような機会がありましたら、ぜひご活用ください。



2歳～6歳頃の読み聞かせ ことばやジャンルを広げよう

会話ができるようになってくると、ことばの数が増えていきます。

いろいろな実体験を大切にしながら、絵本や本のジャンルを広げていきましょう。

2歳～6歳の頃

行動範囲が広がり、幼稚園・保育所などで、友だちなどとかかわることができます。さまざまなことやものに興味・関心を持ち、個性もはっきりしてきます。



友だちと遊べるようになってきたのね



自分から話そうとするなど、自我がめばえてきたね

子どもと会話を楽しむ

幼稚園・保育所の読み聞かせなどを家庭でも話題にしてみましょう。



よかったね。
お母さんも
聞いたかったな

幼稚園で絵本を
読んでもらったよ！



この時期の読み聞かせ

文字を覚えはじめて、読み聞かせは続けましょう（11ページ参照）。おはなしを聞くことで絵本や本の世界に引き込まれていきます。

子どもは
くり返しが大好きです。
気に入った絵本や場面は
何度も読みましょう。



ひざの上や布団の中など、子どもが気持ちよく感じる場所でおはなしをすると、うれしそうだね



- おすすめの絵本や本
- ✿ 昔ばなし
 - ✿ 物語・童話
 - ✿ 科学絵本
 - ✿ 生きもの図鑑 など



いつもとは違うジャンルの絵本や本を選ぶと、子どもの興味・関心を広げるきっかけになります。図書館や園からの貸し出しやおはなし会を利用してみましょう（12・13ページ参照）。

絵本以外で おはなしを楽しむ方法



紙しばいは、紙しばい用の舞台を使うことで、より楽しむことができます。



昔ばなしなどは、ことばだけでおはなしを聞いて、楽しむことができます。



読み聞かせの大切さ

子どもは、絵本などのおはなしを聞くことが大好きです。
物語の世界にひたる体験はこころを育てます。



物語による体験が想像力を育てます

子どもが物語を聞いているときは、登場人物になりきって、想像の世界を自由に楽しめます。

登場人物のうれしさや悲しさ、痛みなど、さまざまな気持ちにふれることで、他人の感情や思いを知ることができます。

物語の中で、いろいろな世界を体験することにより、想像力などを身につけていきます。

耳からおはなしを楽しむ

子どもは、ことばを耳で覚えます。耳からどんどん新しいことばを吸収していきます。

ことばを覚えるとともに、耳から聞いて具体的なものや場面などのイメージを持ったり、さまざまな気持ちを感じたりすることが大切です。

並べてみよう



なんだろう…



次はどうなるのかな

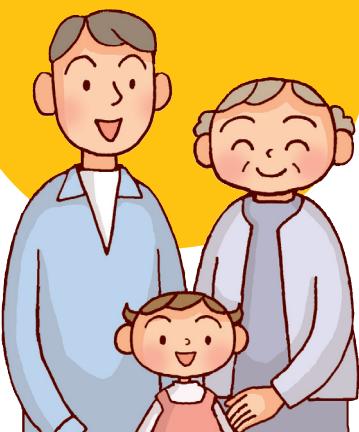


楽しいね



だんだん絵本の世界を楽しめるように…

幼いときから、
たくさんおはなしを
しましょう。



文字が読めることと 本を読めることは別です

子どもが「字が読めるようになったから」といって、読み聞かせをやめていませんか。

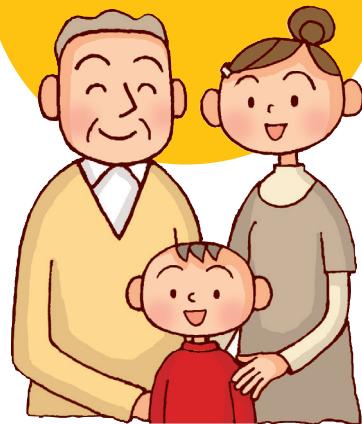
文字を読めても、おはなしを楽しめるとは限りません。

また、ひとりで本が読めるようになっても、おはなしを聞くよろこびは別のものです。小学生には小学生の読み聞かせの楽しさがあります。

読んでもらうのは
うれしい!



小学生や中学生になつても読み聞かせをしたり、今度は子どもに読んでもらつたりしましょう。



「昔ばなし」の読み聞かせ

昔ばなしは、ことばで語り伝えられてきたおはなしがあります。読み聞かせに向いています。

先人の知恵がつまつたおはなしを聞くことを通じていろいろな体験をすることは、子どもの成長につながります。



読み聞かせがはぐくむもの

小学校入学以前に家庭で読み聞かせをしてもらった子どもは、読んでもらわなかっただ子どもよりも、小学校2年時に、読書に対する興味は約30ポイント、学校の授業の楽しさで約20ポイント高かったという調査結果^{※1}がありました。

また、「平成22年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）」の調査結果によると、読書が好きな児童生徒の方が、小学校でも中学校でも国語と算数・

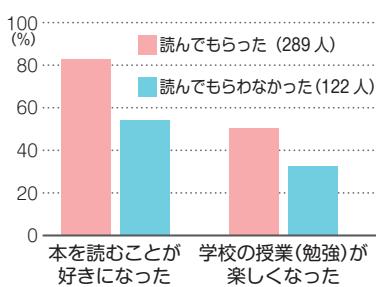
数学の平均正答率が高い傾向が見されました。

さらに、世界65の国・地域の15歳を対象にOECD（経済開発協力機構）が実施した「生徒の学習到達度調査（PISA：ピザ）」の2009年調査結果によると、フィクション（小説・物語など）や新聞を読む生徒の方が、読まない生徒より、総合読解力の平均得点が高いことがわかりました^{※2}。

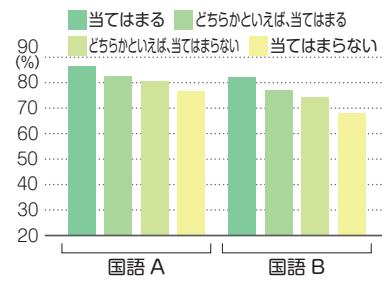
※1「子ども読書活動推進に関する評価・分析事業報告書」2010年3月 財団法人 文字・活字文化推進機構

※2「読む」は「年に数回」「週に数回」と回答した生徒で、「読まない」は「まったくか、ほとんどない」「年に2～3回」「年に1回ぐらい」と回答した生徒。

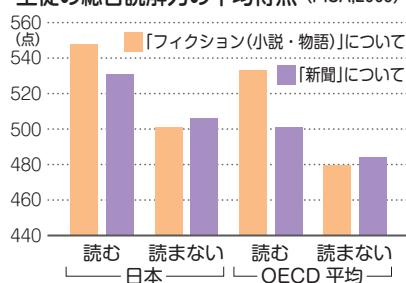
小学校入学以前の読み聞かせ経験 (小学校2年)



「読書は好きですか」への回答と国語の平均正答率 (平成22年度全国学力・学習状況調査：小学校)



「読む」、「読まない」別に見た 生徒の総合読解力の平均得点 (PISA, 2009)



絵本にふれる機会を増やそう

昔ばなしや物語、科学絵本など、さまざまなジャンルの本と出会うことで、興味・関心が引き出されます。地域の図書館や書店、幼稚園・保育所など、絵本とふれあえる場を活用しましょう。

絵本はいろいろな場所にあります

さまざまなジャンルの本と出会う機会を持ちましょう。



図書館は絵本などを無料で借りることができます。



地域によっては移動図書館がまわってきます。



子育て支援センターなど、絵本を読める施設があります。

図書館以外でも、公民館、児童館、民間の地域家庭文庫などで、絵本を見たり借りたりすることができます。



たくさんの中をそろえる図書館

図書館の規模にもよりますが、さまざまなジャンルの本があります。



まわりを気にせず、多少の声を出してもかまわない児童コーナーや赤ちゃんコーナーなどを備えているところもあります。



読みたい本が見つからないときは、図書館の人につれてみましょう。

家族みんなで図書館に出かけてみませんか

お父さん、お母さんが子どもの頃に見たり読んだりした絵本を、子どもにすすめてみてはいかがでしょうか。



絵本を選ぶ体験をさせてみてはいかがでしょうか。



絵本を借りるときの会話のやりとりは、子どもの社会性をはぐくみます。

絵本を通じたイベントに参加してみよう

図書館や書店、幼稚園・保育所などの施設では、「読み聞かせ会」や「わらべうたの会」など、さまざまなイベントを行っています。

子育て中の親子やボランティアの人たちと交流する機会にもなります。



子ども向けのイベント



季節ごとのイベント



親子向けのイベント

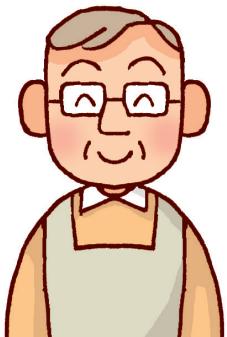


ブック先生の



こんなとき、 どうする・どうしたQ&A

私が
お答えします。



「もう字が読めるようになったから自分で読みなさい」と
言ってよいのでしょうか。



子どもが望む間は読みましょう

字が読めることと、おはなしがわかることは別のことです
(11ページ参照)。

子どもでも、大人でも、耳でおはなしを聞くことはここち
よい体験です。子どもが望む間は読み聞かせを続けましょう。



落ち着きがなく、読み聞かせを続けられないのですが、
どうしたらよいのでしょうか。



気長に挑戦しましょう

子どもが小さい頃は、なかなかおはなしを聞いてくれない
ことがあります。

子どもが気に入った絵を見たり、おしゃべりをしたりして、
少しずつ絵本に親しませましょう。

子どもが興味・関心を持ちはじめると、少しずつ見てくれ
るようになります。



表紙が見えるように絵本をおくと、
子どもが興味・関心を持ちやすくな
ります。



同じ絵本ばかりを読みたがりますが、このままでよいのでしょうか。



心配はいりません

お気に入りの絵本ができるることはすばらしいことです。

子どもが満足のいくまで何度も楽しむと、興味・関心は
うつっていきます。気になるようでしたら、好きなページや
場面から、少しずつジャンルを広げてみてはいかがでしょうか。





障害のある子どもが絵本を楽しむには…



さまざまなタイプの絵本があります

布の絵本やさわる絵本、点字絵本、CD絵本など、さまざまなタイプがあります。読み聞かせは子どもの成長の力となりますので、ぜひ子どもにあった絵本をさがしてみてください。その際、たとえば図書館や、都道府県・市区町村にある社会福祉協議会に相談するとよいでしょう。



わが家では本を読む習慣がありませんが、子どもに影響することはありますか。



子どもといっしょに習慣をつくってみませんか

ある調査*によれば、小学校1年生の時点で、お父さんやお母さんが本を読まない家庭の子どもは本を読まない、お母さんがよく読み聞かせをしている子どもは本をよく読む、という傾向が見られました。家族の読書習慣などが子どもの読書に影響を与えることもあるかもしれません、子どもが興味・関心を持ったときが、その子にとって本と出会う最適期です。読み聞かせを通して、今からでも子どもといっしょに本に親しんでみてはいかがでしょうか。



*「第7回21世紀出生児縦断調査（平成20年）」厚生労働省



仕事や家事に追われ、読み聞かせをする時間がとれないのですが、どうすればよいのでしょうか。



家族のライフスタイルにあわせてはいかがでしょうか

読み聞かせをする曜日や時間を決めておくと、負担なく気軽にできます。出勤前、お昼寝の前、食事の後、お風呂上がり、寝る前など、できる時間を探してみましょう。

また、子どもが「よんて」といったときに、つい忙しく「あとでね」と言ってしまいがちです。今すぐは無理かも知れませんが、その後にできるだけ、読んであげましょう。



子どもが3歳になりますが読み聞かせをしてきませんでしたが、今からでもよいのでしょうか。



何歳からでも安心してはじめてください

読み聞かせを続けているうちに、子どもが成長し、興味・関心が広がったり、情緒が豊かになったりしていく様子を実感できるようになっていきます。



これ
なあに？



読み聞かせがはぐくむ子どもの力



ことばの力



感じる力



想像する力



生きる力



表現する力



今日からはじめてみませんか
絵本の読み聞かせ